

(別紙4(2))  
**目標達成計画**

事業所名 : グループホームせせらぎ

作成日 : 平成25年3月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について、地域の方と避難訓練等実施しているが、実際の避難誘導に時間がかかっている。また、地域の方が、入居者の身体状況、認知度の程度、施設内の間取りなど、把握していない。	①訓練を地域の方と定期的に開催し、反省、アドバイスを活かし、緊急時に対応ができる。 ②職員だけでなく、地域の方に、利用者や、施設の間取りを知ってもらう。	運営推進会議と同時に災害時(火災、水害、地震等)の訓練を実施する。また地域の方と利用者の交流の機会を作る。(施設内で一緒に食事をしたり、地域行事に利用者と一緒に参加する。)どの部屋に、どんな利用者が生活されているのか定期的に報告する。	3ヶ月
2	36. 45	浴室の環境整備が充分ではない。重度の方の入浴について、対応が難しい時がある。	①入浴が、利用者にとって(職員にも)安心、安全に心地よく、楽しめるものになる。	浴室の環境整備について、次回ミーティング時、PEAPの視点で話し合い、ソフトとハード面の対応を考える。重度の方の入浴方法について、マニュアルを再検討しケアを統一する。	1ヶ月
3	10. 20	利用者、家族の運営、ケアに関する意見について、充分把握できていない。(家族が遠慮されたりして)重度の利用者に対して生活歴を活かしたケアが充分ではない	①定期的にアンケートを実施し、利用者、家族の思いを客観的に判断し、ケア・運営に活かす。 ②アセスメントも利用者、家族に細かく聞き取りし、ケアプランに反映させる。	一年に1回は、ケアや運営に関してのアンケートを実施する。コミュニケーションが難しい利用者に対しては、面会時や、家族会での交流を通して、家族からお話を聞く時間を持つ。アセスメント・ケアプランの研修の機会を作る。	6ヶ月
4	54	利用者の居室によっては、環境整備が充分ではないお部屋がある。	①環境整備委員会を中心に、利用者が、落ち着いて、安心して過ごせるような居室の環境改善に取り組む。	環境改善に取り組んだ事例を参照にしながら、対象者を絞り、利用者、家族と協力しながら1一事例ずつ取り組む。(現状の課題→実際の家の間取り、施設と家のお部屋での過ごし方のアセスメント→違いの確認をしケアのアイディアを出す→出来ることから実行→評価)	12ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。